

ラオスを通して考えた！わたしの未来・みんなの未来

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	榊原 麻起子 (L)
対象	高校1年生	時間数	3時間(50分×3)
場所	視聴覚教室	実践教科	ホームルーム
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスの人々、ラオスという国と肯定的に出会う。 ・ ラオスの人たちの大切なもの、しあわせを通して、夢を叶えるために必要なものを考える。 ・ 世界の中の自分に気づき、自分の未来について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>～ ラオスと肯定的に出会う ～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アイスブレイキング(自己紹介 “3つのわたし、1つはうそ!”) ② ラオス〇×クイズ ③ ラオスで私が学んだこと、感じたこと、気づいたこと ④ ラオスのおみやげ試食会 	A4 用紙、ペン 写真 ラオスの国旗 資料 AIA フレンドシップ教材
	2	<p>～ 大切なもの・しあわせとは？夢をかなえるために ～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アイスブレイキング(自己紹介 “私の夢”) 小さい頃の夢・これから挑戦したいこと ② クイズ ラオス人の大切なもの、しあわせを感じる時 日本人高校生のデータと比べて、クイズ形式で考える →データを比べて気づくことをポップコーン形式で発表 ③ 大切なもの・しあわせってなんだろう？ ☆なりきり自己紹介 	PPT 資料 A4 用紙 “ラオス人の大切なもの・しあわせ”写真6人分
	3	<p>～ わたしの未来の作り方 ～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前回のふり返り ② 夢を叶えるために必要なもの ☆派生図・ブレインストーミング →グループで作成した後、ギャラリー形式でシェア ③ ラオスで活躍する日本人 ラオスで教育・医療・環境・福祉の分野でラオス人のために働いている日本人のメッセージを紹介 →何が一番自分の心に響いたか、グループでシェア ④ これからの私 ☆ タイムライン ⑤ 感想～私の未来をつくるためにすべきこと 	模造紙、ペン 映像 A4 用紙 ワークシート
成果	ラオスの人たちの大切なものを聞いて、家族の大切さ・教育の大切さに気づいた生徒が多く見られた。また、ラオスで活躍している日本人の姿は彼らのロール・モデルとなり、自分の将来について考える機会になったようである。普段友達とこういう形で意見を交換するような機会がほとんどないので、お互いを知ろうえでも貴重な活動であった。		
課題	3日間に分けて実施したので、流れが途切れてしまい、その分時間がかかってしまった。もう少し内容を深めて、生徒に考えさせる機会が与えられるとよかった。今回は自分の未来(進路)について考える機会としたが、そこから世界の子供たちの置かれている現状、未来についても考える活動に発展させたい。		
備考	担任クラスで実施した。クラスに11月に外務省の JENESYS2.0 プログラムでラオスに派遣された生徒4名がいるため、その生徒たちの帰国報告を兼ねて、ラオスについてのクイズを作ったり、ラオスで自分が感じたことなどを話してもらうなどして参加してもらい、他の生徒に彼らの生の声を聞かせる機会にした。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「ラオスと肯定的に出会う」

1 子どもの活動の流れ

① アイスブレイキング…自己紹介「3つのわたし1つはうそ！
同じクラスでも話をしたことがない人もいるので、お互いをよく
知るために、もっと自分を知ってもらおう活動をした。

② ラオス〇×クイズ
ラオスに派遣にされた生徒たちの帰国報告を兼ね、自分た
ちが見聞きしたことなどをクイズの形式にして他の生徒たち
に知ってもらい、ラオスを身近に感じるきっかけ作りをした。

③ ラオスで私が学んだこと、感じたこと、気づいたこと

ラオス派遣の生徒たちがラオスで感じたこと、気づいたことを発表した。

Iさん「ラオスの高校生たちは大切なものは何？と聞かれると“勉強”と答える人が多くいて、日本より
も教育事情は良くないのに、自分の将来を考えて、ちゃんと勉強しているからすごいと思った。」

S君「ラオスの高校生たちは自立していて、自分たちでいろいろなことを考えて行動していると感じた。」

Hさん「家族を大切にしている人が多く、友達同士もみんな仲が良いなあと思った。日本よりも人と
人とのつながりが強いような気がした。」

Yさん「日本から来た私たちをととてもあたたかく受け入れてくれた。私たちが英語ができなくても、一生
懸命わかろうと努力してくれた。優しい人が多かった。」

④ ラオスのおみやげ試食会

ラオスで購入してきた ADDP のクッキーやタマリンドキャンディー
など、どういものか説明しながらみんなで試食した。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ JENESYS2.0 ラオス派遣事業終了直後に派遣生徒の生の声をクラ
ス全員に聞かせたいと思い実施した。クイズも自分たちが体験した
ことから問題を作り、答えの際にも説明を加えるなど、自発的に工夫
をこらしていた。また、感想を述べる際にも派遣前よりも堂々とした
態度で、きちんと自分の意見を伝えようとする姿が見られ、彼らの変化は、他の生徒たちのロール・モデル
になったのではないかと思われる。

◇ 「ラオスってどこ？」「アフリカ？」という生徒もいたが、ラオスについて身近に感じられるようになった。

◇ 主な感想は次のとおり。

- ・「ラオスの人はとても優しい。ラオスに行ってみたいと思った。」
- ・「ラオスと日本は結構関わりがあるんだなと思った。」
- ・「ラオス人の多くがスマホを持っていて、SNS をしていると知って、びっくりした。」
- ・「ラオスの主食は米で、ラオス料理は日本人の口に合うらしいので、食べてみたいと思った。」

この時限のねらい

ラオス派遣の生徒たちの帰国報告
を兼ね、写真や実物を通してラオ
スに興味・関心を持つ。ラオス派遣
の生徒たちの感想をみんなでシェ
アし、ラオスの魅力を発見し、ラオ
スを身近に感じて、ラオスと肯定的
に出会う。

<教材1 〇×クイズの質問>

- ① ラオスで子供の頭をなでると
いいことがある。(×)
- ② ラオス人が一番使っている
スマホは iPhone (×)
- ③ ラオスではお祝い事の日
に雨が降ると幸せになる(○)
- ④ ラオスでは高校生でもバイク
に乗れる(○) など

3 使用した教材

- <教材1> 愛知県国際交流協会 『私たちの地球と未来(ラオス)』及び生徒たちの作ったクイズ
- <教材2> JENESYS2.0 ラオス派遣事業で参加者が撮った画像
- <教材3> ラオスのお土産(ADDP クッキー、タマリンドキャンディー、ラオスの塩、収穫前の青米)
- <教材4> ラオスの国旗

2 時限目「大切なもの、しあわせとは？～夢をかなえるために～」

1 子どもの活動の流れ

① アイスブレイキング

自己紹介「小さい頃の私の夢・これから挑戦したいこと」
自分が小さい頃に思い描いていた夢を思い出しながら、こんなことに挑戦してみたいということを考え、グループ内で発表した。

② クイズ「ラオス人の大切なもの、しあわせを感じる時」

日本人の大切なもの、しあわせを感じる時と比較することによって、物質的な豊かさ＝幸せか、考えてみる。ポップコーン形式で、気づいたことを発表し、全体でシェアした。

③ なりきり自己紹介「大切なもの・しあわせって何だろう？」

6人グループになり、ラオス人になったつもりで自己紹介をした。その際、その人が答えた「大切なもの」、「しあわせ」に加えて、「夢」を想像して、その人の思いを語った。

この時限のねらい

自分の小さい頃の夢を思い出し、今自分がやりたいことは何かを考える。日本人の大切なもの、しあわせとラオスの人たちの大切なもの、しあわせを比べて、みんなにとって夢をかなえるために必要なものは何かを考えるきっかけを与える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ “ラオスは発展途上国で貧しい”というようなステレオタイプを持っていた生徒たちが多かったと思うが、ラオス人の“大切なもの、しあわせを感じる時”をいろいろと聞き、自分でその人になったつもりでその人の夢を語る中で、人間にとってしあわせというのはどういうことだろうと考えることができたのではないと思う。自分の夢を他の人に話すのは、ためられることもあるだろうが、他の人の夢として、語ることで自分もそんな風に肯定的に希望を持って、未来を語ってもいいのだということを感じてくれたと思っている。
- ◇ 主な感想は次のとおり。

- ・「ラオスの人たちの行動や生き方から自分を見つめ直す必要があると感じました。」
- ・「ラオスの子が自分と違って、勉強を大切と言っていて、考えさせられた。やらされる勉強より自分のためになるような勉強をするために、まず将来のやりたいことをたくさん考えようと思った。」
- ・「勉強ができることは日本では当たり前だけど、幸せに思わないといけないんだなと思った。」
- ・「日本人はいろいろなことが当たり前になりすぎて、大切なことを忘れてしまっていると思った。これからは学べる喜びを感じながら、学校生活を送りたい。」
- ・大切なものを勉強と答えるなんて、私は考えたこともなかったけど、勉強ができないと何にもできないということに気づいた。」

3 使用した教材

<教材5>「ラオス人・日本人
にとっての大切なもの、し
あわせを感じるとき」パワー
ポイントスライド

<教材6>H26年度教師海
外研修参加者が収集した
ラオスの人物写真



3 時限目「わたしの未来の作り方」

1 子どもの活動の流れ

- ① 夢をかなえるために必要なものは？
日本だけでなく、どこでも、どんな人でも夢をかなえるために必要なものを派生図で書き出した。その後ギャラリー方式で他のグループのアイデアをシェアした。
- ② ラオスで活躍する日本人
ラオスで教育・医療・環境・福祉の分野でラオス人のために働いている日本人のメッセージの映像を見た。自分の将来のヒントになりそうなこと・一番心に響いた言葉とそれはなぜかをグループ内でシェアした。
- ③ これからの私
3年後のバラ色の未来・こうなって欲しくないNGな未来のタイムラインを作成。
- ④ わたしの未来・みんなの未来をつくるためにすべきこと
今までの活動を振り返り、気づいたことをまとめ、シェアした。

この時限のねらい

夢をかなえるために、日本でもラオスでもどこの国でも必要なものは何かを考える。ラオスで活躍する日本人のメッセージを聞いて、自分の将来を考えるきっかけにし、これから自分の未来を作っていくためにはどうしたらいいかを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

<成果1 派生図>



<成果2 タイムライン>



- ◇ ラオスでラオス人のために働く日本人の方からのメッセージを生徒たちは食い入るように一生懸命見ていた。彼らのメッセージは生徒たちの心に響くものがたくさんあったようだ。4人の方のメッセージを聞いたが、生徒によって心に響く言葉が違って、彼らの言葉の中から自分が参考にしたいと思うメッセージをきちんと受け止めている様子だった。日頃から授業で、友達と話し合いながら、答えをみんなで考えるという活動があまりなされていないので、最初は苦手意識を持っていた子もいたようだったが、友達の意見を聞いて、自分の考えがさらに深まって行くという経験を楽しんでいる様子が伺えた。
- ◇ 主な感想は次のとおり。

- ・「大人になっても、将来の夢を持っている人ばかりで、すごいなと思った。」
- ・「4人の人たちはみんな“海外に目を向けて、視野を広げよう”と言っていたのが印象的だった。」
- ・「ラオスの人々のために日本人が様々な分野で支援をしているのがわかり、日本人として誇らしかった。」
- ・「今はただ毎日が過ぎていってしまっているけど、自分の将来の夢につながるものは近くにあるのかもしれないなと思った。もうちょっと自分の未来のことを考えていけたらなあって思った。」
- ・「人との出会いが大切だと思った。そういう出会いの中から自分に与えられたチャンスを生かしたい。」
- ・「“目の前にある夢中なことを一生懸命頑張る”という言葉がすごく心に響いて、部活をさらに頑張ろうという気持ちを持てた。」

3 使用した教材

<教材7>H26年度教師海外研修参加者がラオスで撮影したラオスで活躍する日本人の映像

■ 全体を通して

1 授業の様子

- ◇ ラオスに研修に行く前から、クラスの生徒たちにも“大切なもの、しあわせを感じる時”のアンケートを実施したり、学校祭のクラス企画の中で、ラオスで私が集めてきたアンケートの写真、生徒たちが集めてきた他の国の人たちの写真などを展示したり、ファレル・ウィリアムズの“HAPPY”の動画をクラスで作ったり、フィリピンのフェアトレード雑貨を売って、フィリピンの人たちに売り上げを寄付したりという活動を行った。このテーマに合わせた活動を徐々に行ってきたからの授業実践となった。
- ◇ 担任クラスの生徒たちの中には”将来何になりたいかわからない” “夢がない” “というものも少なからずおり、そういう生徒たちが、進路を考える上でのヒントを少しでも得ることができたのではないかと思う（願っている）。

【生徒の感想から】

- ◇ 「自分の利益のためではなく、人のために何かをしてあげたいと思う気持ちはとても大切。」
- ◇ 「日本は恵まれていて、ラオスなどの他の国を援助していくのは、とても大切なことだと思った。」
- ◇ 「自分では考えもしない意見が他の人から出てきて、いろんな意見が聞けておもしろかった。」
- ◇ 「私は実際にラオスに行ったので、ラオスの人々がどれくらい日本人よりも大きな夢をもっているのかを実際に聞いていたので、再びこのような話を聞けて、ラオスってたくさんすばらしい人がいるのだなと思いま

した。小さな子供でさえも、自分の持っているものよりも家族が大事で、勉強が大事でそんなことが幸せと言える心が温かい人が多いのは尊敬するし、うらやましい。“もし、自分が家族というものを新しく持った時、自分もそう言える人でありたいし、子供にもそう言ってもらえるようになりたい。”と思いました。今日聞いたラオスで働く日本人の方々もそうやって夢を持ち、実現させてラオスにいるんだと思いました。私はラオスに行って、将来海外で働きたいという気持ちが強くなりました。私がラオスに行けたのも、そういうきっかけをくれた人々との出会いがあったからだと思います。そんなきっかけを分け与えてくれる人はいくらでもいるけど、そこからの努力は自分でしかできないので、いろいろな勉強をがんばって、自分の夢をかなえられるように頑張りたいと思いました。」

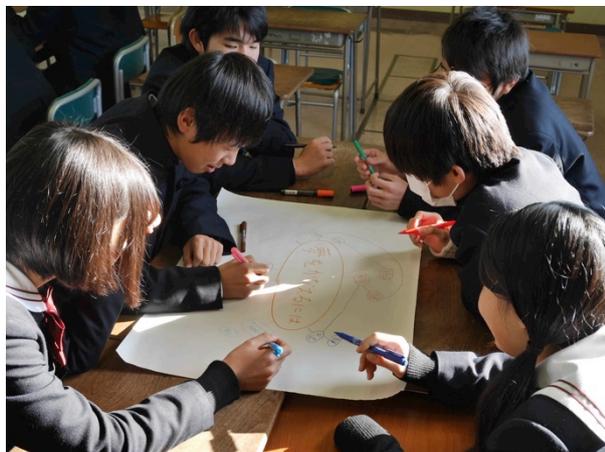
<写真1>ラオスに関する○×クイズ



<写真2>なりきり自己紹介



<写真3>夢をかなえるのに必要なのは？



<写真4>ラオスで活躍する日本人の映像視聴



2 参考文献・資料

- 1) 公益財団法人愛知県国際交流協会 『私たちの地球と未来(ラオス人民民主共和国)』
- 2) JICA in the Lao PDR 2012-2013
- 3) mundi 2014 November No.14/ December No.15